

電流伝送プリ(フォノEQ+ラインアンプ)基板

金田氏MJ2012年2・3月号版 No.218

第1.0版	2012年 9月 27日	初版

本解説書、ならびに掲載されている、基板・回路他の一部あるいは全体を無断使用することはできません。
Copyright(C) 2008 M.H. All rights reserved.

ご注意・お願い

本基板を使った工作には、感電、火災等の恐れがあります。
十分なご注意を持って、ご自身の判断で組み立てをお願い致します。
当方は、一切のトラブルに対して責任を負いませんのでご了承願います。

また、説明書やホームページの写真は組み立て参考例として掲載しております。性能や音質を保障するものでは無いことをご承知願います。
使用される部品や、回路の変更に關してもご自身の判断にて行うようお願い致します。

表紙にも記載したように、著作権の放棄はしておりませんので、一部または全体を無断で第3者に対して使用する事、転用するは出来ないことを承知願います。

組み立てメモ

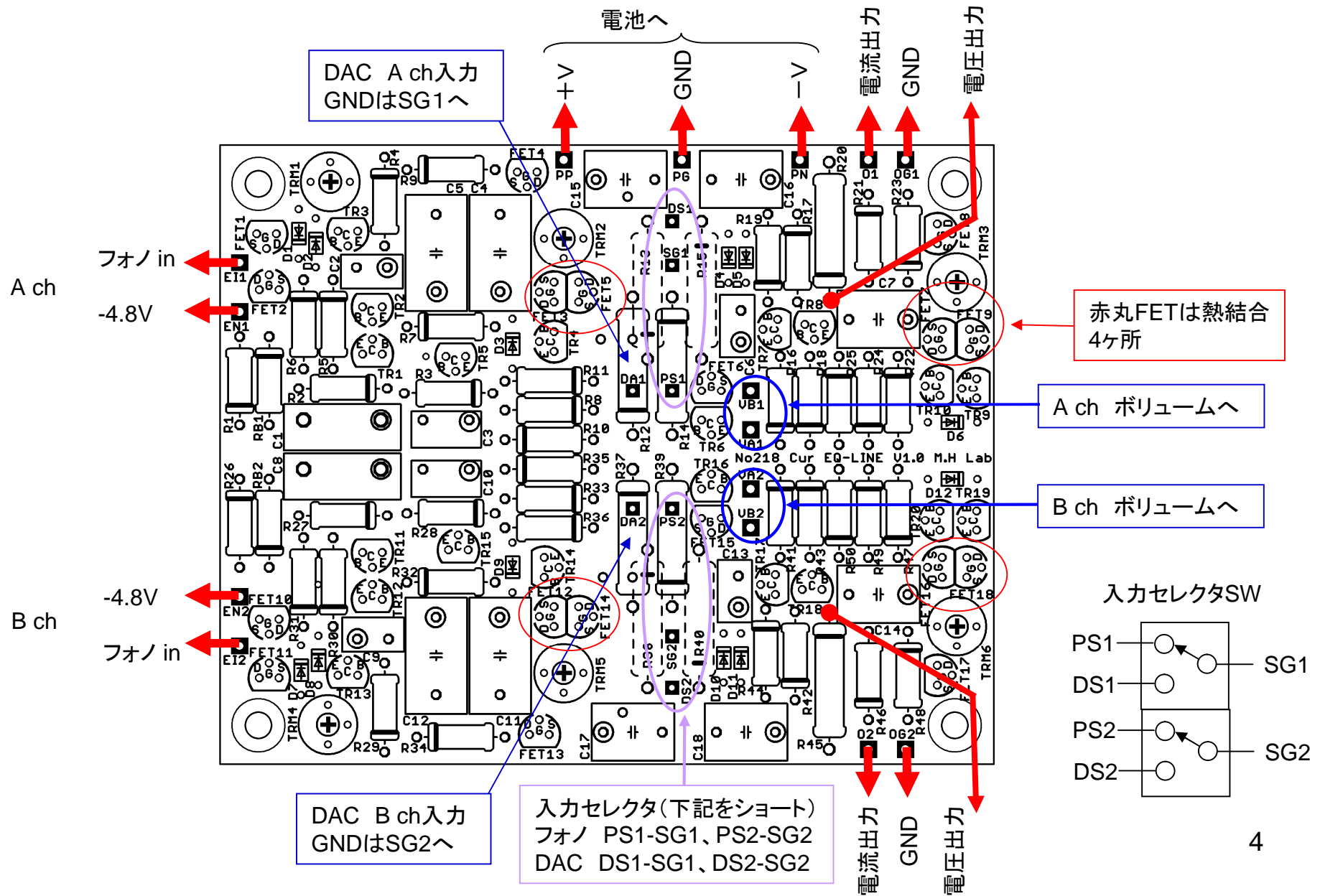
(電流伝送プリ+ラインアンプ)

部品一覧(P. 5・6)と図面(P. 4)に従い部品を基板を組み立てます。

- ・フォノEQ、ラインアンプが実装された2チャンネル1基板です。
- ・FET6とFET15 の i_{dss} は最低9.5mAをお使いください。
記事の通りの各部電圧には $i_{dss}=11\text{mA}$ でした(当方実験において)。
尚9.5mA以下を使用の場合、SAOCの2.4k抵抗の調整でオフセットはゼロに出来ますが、SAOCの作用が可聴帯域に入ってきて低域波形が歪みます。この場合は、SAOCの時定数の変更も必要です。
- ・DAC入力を使用しない場合には、下記のようにシンプル化できます。
スケルトン抵抗 R12、R14、R37、R39の取り付けません。
また、基板上でPS1-SG1間、PS2-SG2間をジャンパーショートします。

図面(アンプ基板)基板接続

コンデンサ(○マーク、電解は+マーク)、抵抗(線マーク)の有る側が記事回路図△



部品一覧(アンプ部1)

Qty	Value	Device	Part
2	20p	SE	C2, C9 (記事では10pですが20pの方が安定しました)
2	39p	SE	C6, C13
2	1500p	SE	C3, C10
2	5100p	SE	C1, C8
6	0.1u	APS	C7, C14, C15, C16, C17, C18
4	0.22u	APS	C4, C5, C11, C12
4	33		R5, R18, R30, R43
4	82		R10, R24, R35, R49
4	91		R8, R22, R33, R47
4	110		R4, R17, R29, R42
2	150		RB1, RB2
4	180		R9, R23, R34, R48
2	390		R16, R41
2	1.2k		R1, R26
4	2.4k		R11, R25, R36, R50
4	3.6k		R6, R19, R31, R44
2	51k		R3, R28
2	820k		R2, R27
2	1.5MEG		R21, R46
2	5.6MEG		R7, R32

部品一覧(アンプ部2)

Qty	Value	Device	Part
2	1k	スケルトン	R20, R45
4	5.1k	スケルトン	R13, R15, R38, R40
4	8.2k	スケルトン	R12, R14, R37, R39
2	500	TM-7P	TRM1, TRM4
4	50	TM-7P	TRM2, TRM3, TRM5, TRM6
2	2SJ103BL	P-FET	FET1, FET10
8	2SK117BL	N-FET	FET2, FET4, FET6, FET8, FET11, FET13, FET15, FET17
8	2SK170BL	N-FET	FET3, FET5, FET7, FET9, FET12, FET14, FET16, FET18
16	2SA970	PNP-TR	TR1, TR3, TR4, TR5, TR6, TR8, TR9, TR10, TR11, TR13, TR14, TR15, TR16, TR18, TR19, TR20
4	2SC2240	NPN-TR	TR2, TR7, TR12, TR17
12	1S1588		D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, D10, D11, D12

基板サイズと取り付け穴 ()内ねじ穴位置-ネジ中心線

